

2010年11月30日

報道各位

NPO法人ウヨロ環境トラスト

「プロジェクト未来遺産」決定のプレスリリースについて

社団法人日本ユネスコ協会連盟からの依頼により、連絡させていただきます。

社団法人日本ユネスコ協会連盟（日本における民間ユネスコ運動の母体）がすすめる未来遺産運動のプロジェクトとして、今回登録分として国内10件のうち北海道内の3件が決定しました。前回の第1回選定プロジェクトとしては北海道内がなかったため、今回の北海道内3件の登録分が道内では初めての選定となります。

この未来遺産運動の詳細は別紙のとおりですが、未来の子ども達に長い歴史と伝統のもとで豊かに培われてきた地域の文化・自然遺産を伝えるための運動です。

つきましては、貴報道機関で未来遺産に道内3件が登録されることが決まったことをご紹介いただければと存じます。

なお、NPO法人ウヨロ環境トラストのプロジェクトも今回の1件として決定しましたが、その内容については下記のホームページをご覧ください。ホームページから登録地の写真のダウンロードもでき、新聞掲載可能です。

リリース配信日：2010年11月30日（火）14：00以降

情報解禁：2010年12月1日（水）0：00以降

（連絡先）「未来遺産運動」事務局

社団法人日本ユネスコ協会連盟企画広報部

星埜、尼子

電話 03-5424-1121 FAX 03-5424-1126

E-mail:kawana@unesco.or.jp

<http://www.unesco.jp/mirai/>

NPO法人ウヨロ環境トラスト

電話 080-6096-6229（辻） 団体事務所 0144-85-2852

E-mail:tsuji@shiraoi.org

ウヨロ川の未来遺産に関して <http://www.shiraoi.org/trust/mirai/>

## 「野生サケのふるさとウヨロ川保全調査・普及プロジェクト」の概要

ウヨロ川は胆振地方の最高峰ホロホロ山を水源とする水質良好な川で、サケの自然産卵を間近に見ることができる北海道内でも屈指の川です。中流部周辺は、湧水地、雑木林、カラマツ林、牧場等が広がり、その中を清らかな小川が流れて池を形作るなど、北海道の里地・里山と呼ぶのにふさわしい自然となっています。

また、先住民族アイヌの人々がこの地でサケを捕獲してきた歴史があり、アイヌ語地名が残されており、現在はイオルの活動としてサケの捕獲体験も行われております。

このウヨロ川中流部の自然を未来の子ども達に残していくために、これからもウヨロ環境トラストが設立以来行ってきたナショナルトラスト活動や森づくり活動を進めるとともに、本プロジェクトにより、サケの遡上実態や河畔林の調査、サケ遡上観察会の実施、案内看板の設置などを行い、野生サケの重要性を広く伝えていきたいと考えております。

### プロジェクト登録についての理事長コメント

(NPO 法人ウヨロ環境トラスト理事長 齊藤春生)

この度未来遺産プロジェクトに登録されるのが決まったことは、これまでのウヨロ川周辺での環境保全活動が評価されたものであり、関係者一同大変喜んでおります。未来遺産の登録により、さらに多くの方にウヨロ川やその周辺の自然の素晴らしさを知っていただくことができると思います。

今回のプロジェクトを通してこれまでの活動をより深め、野生サケやそれを育む森林の重要性を伝えていきたいと考えます。

## 野生サケのふるさとウヨロ川保全調査・普及プロジェクト

### 推薦団体

白老町教育委員会、北海道ユネスコ連絡協議会

### プロジェクト対象

北海道白老町の中央部を流れるウヨロ川中流部及びその周辺

### プロジェクト対象の現状

ウヨロ川は北海道の南西部胆振地方の最高峰ホロホロ山（標高1,322m）を水源とし、太平洋に注ぐ延長約19kmの水質良好な2級河川である。40年ほど前に下流部は河川改修により直線化されたが、その結果左岸には自然豊かな三日月湖が何箇所も残されている。また中流部周辺には、雑木林、カラマツ林、牧場、丘陵地などの自然豊かな田園的景観が続く。湧き水を水源とする清らかな小川がそれらの中を縫って流れ、池も形づくっており、北海道の里地・里山と呼ぶのにふさわしい自然となっている。

ウヨロ川の中流部の支流イレスナイ川にはサケマス孵化場があり、毎年春には数百万単位で稚魚の放流が行われており、平均5年程度で放流したサケが太平洋から戻ってくる。河口部付近にはサケの捕獲施設があるが、それを乗り越えてサケが毎年秋には川へ遡上し、扇状地形の勾配が緩やかな中流部で自然産卵するサケが多数見られる。それらの自然産卵するサケについて、2009年の秋から初冬にかけて調査したところ、放流魚のほかに自然産卵により孵化した稚魚が戻ってきた野生サケも相当数あることが分かった。

なお、ウヨロ川左岸には近年手作りの自然歩道フットパスが当会により整備されたため、秋にはサケの遡上を観察するため多くの方が訪れてくるようになってきた。

### これまでのプロジェクト対象と地域の関わりについて

開拓以前の北海道では、先住民アイヌが秋になると冬に備えた食料とするため川に上るサケを捕獲しており、ウヨロ川においてもサケを捕獲した場所が「カッケンハッターリ」（カワガラスの淵）という地名で残されている。

サケは重要な水産資源なので明治期以降北海道では多くの川で人工孵化放流が始まり、現在では孵化のための親魚を獲る目的の捕獲施設が多くの川に設けられたことから、サケの自然産卵は少なくなり、捕獲施設のない小さな川や、捕獲施設をなんとか乗り越えたサケだけが産卵している状況である。また、農地開拓などにより河川改修も進み、サケの産卵できる河川環境も大変少なくなっている。

このような中で、ウヨロ川は北海道内でも数少ないサケの自然産卵が間近に見られる川で、ウヨロ環境トラストは設立以来、毎年秋にサケの遡上と自然産卵の自然観察活動を子どもを対象に継続的に実施してきたほか、近年は一般向けにも行っている。

これまで当会では、ウヨロ川中下流部の自然環境調査、サケの見所を紹介するウヨロ川フットパスのマップ作成などの活動を通してウヨロ川のサケの紹介につとめてきた。2007年3月にはウヨロ川周辺の自然を紹介する、子ども向けデジタル教材「北の里山事典」（<http://www.shiraoi.jp/satoyamaziten/>）を作成し、インターネットで情報提供を開始しており、ウヨロ川のサケ遡上や産卵の様子を動画で発信している。

また、2009年秋から初冬にかけて「ウヨロ川における野生サケの保全調査」に着手し、その成果を本年に入り調査報告書やパンフレット「ウヨロ川サケ ウォッチング・ガイド」、ホームペー

ジ ([http:// www.shiraoi.org/trust/salmon/](http://www.shiraoi.org/trust/salmon/)) にまとめることができた。

この調査により、ウヨロ川で自然産卵するサケの数が極めて多いこと、また同時に、多数のサケ死体魚が存在し、鳥類、哺乳類に利用されていることが明らかになった。開拓前の北海道ではどの河川でも存在しながら現在では極めて少なくなった、遡上するサケが海洋から陸域へ蛋白質などの物質輸送を担うシステムが、ウヨロ川では今なお健在であることが分かった。ウヨロ川ではサケが地域の生態系の中で物質循環の役割を充分果たしており、ウヨロ川の自然の豊かさをあらためて認識したところである。

## プロジェクト内容

### ・概要

北海道南西部胆振地方の最高峰ホロホロ山を水源とする水質良好なウヨロ川は、サケの自然産卵を間近に見ることができる北海道内でも屈指の川である。川の中流部周辺は、湧水地、雑木林、カラマツ林等が広がり、その中を清らかな小川が流れて池を形作るなど、北海道の里地・里山と呼ぶのにふさわしい自然となっている。

このウヨロ川中流部の自然を未来の子ども達に残していくために、今後もナショナルトラスト活動や森づくり活動を進めるほか、本プロジェクトによりサケの遡上実態や河畔林の調査、サケ遡上観察会の実施、案内看板の設置などを行い、野生サケの重要性を広く伝えていきたい。

### ・目標

サケ類は重要な漁業対象種として、明治期から人工孵化放流事業が進められてきた。その結果、河川に遡上して自然産卵するサケ類の割合は減少し、とりわけ人工孵化放流の影響を受けずに本来の個体群を維持する野生サケは、実態が明らかにされないまま絶滅が心配されるまでに至っている。

孵化魚より遺伝子が多様で地球温暖化等環境の改変に対して適応力が強い野生サケの保全是、水産資源の保護のみならず生物多様性の保全のために重要な事項であるが、国や北海道における野生サケ保全政策は十分確立されていない状況にある。

本事業は、野生サケが自然産卵する河川としては道央圏の中でも屈指の河川であるウヨロ川中流部において、河川環境やサケの産卵の実態について、市民レベルの環境活動として調査を継続し、その普及活動を合わせて行うことにより、野生サケのふるさとウヨロ川を未来の子ども達に残そうとするものである。

### ・活動期間

2011年9月～12月

### ・活動内容

ウヨロ川中流部の河川環境とサケの産卵の実態の把握のため、専門家の協力を得てサケの遡上実態とともに河畔林の環境調査を行う。現地調査はボランティアも参加しながら、市民参加で実施する。

また、市民や子ども向けの「サケ遡上観察会」の開催や「サケ遡上ツアー」の案内、案内看板の設置などを行い、野生サケの重要性について普及啓発を行う。

サケ遡上案内研修会	9月
案内看板設置	9月
河畔林環境調査	9～10月
サケ遡上調査	10～12月

サケ遡上観察会 10月、11月

サケ遡上案内ツアー 10～11月

#### ・体制

当会の環境学習委員会が中心となり、外部の専門家として自然ウォッチングセンター（前年度調査の実績あり）や札幌市豊平川さけ科学館、北海道林業試験場研究員の協力を得てプロジェクトを実施する。

#### **成果の見通し**

サケなどの遡上魚類は、海域から陸域への物質輸送に大きな役割を果たしているが、現在では人工孵化放流事業のため遡上する魚の大部分が、産卵できる環境の場所に至るまでに捕獲される河川が多く、生態系の中の物質循環の役割を充分果たすことができなくなっている。今回の事業は、河川に遡上して自然産卵するサケ類の実態を市民レベルで実証的に調査し、その重要性を広く伝え、未来の子どもたちに残していこうというものである。

この事業の実施は、遺伝子が多様な野生サケの保全、ひいては地球温暖化等環境の改変に対して適応力が強いであろう野生サケを保全しようという活動にもつながり、水産資源の保護のみならず生物多様性保全の観点からも大きく意味のあるものである。

また、この活動の普及を図ることにより、道内でサケの遡上や自然産卵が多い河川を有する他地域においても、野生サケ保全の活動の広がりが期待できる。

さらに、調査結果を活用したエコツアー・プログラムを充実することにより、ウヨロ川への来訪者の増加が予想され、野生サケの重要性を広く紹介できるとともに、エコツアーによる自然と調和した地域の活性化が期待される

## NPO法人ウヨロ環境トラストの活動

### ウヨロ川周辺の自然

ウヨロ川は北海道の南西部胆振管内最高峰のホロホロ山（標高 1322m）の山麓を水源とし、太平洋に注ぐ延長 18.8km の水質良好な二級河川である。中流部では、秋にサケが遡上し自然産卵する姿が見られ、周辺には雑木林、カラマツ林、和牛や軽種馬の牧場、丘陵地などの田園的景観が続く。

### ウヨロ環境トラストの誕生と森づくり活動

「ウヨロ環境トラスト」は胆振管内の白老町のウヨロ川中流部において、土地を直接所有したり所有者と保全協定を結び里山の自然を残すナショナルトラスト活動を行っている NPO 法人である。ウヨロ川周辺の素晴らしい自然環境を維持保全するため、2001 年 11 月に白老町民や近郊の苫小牧市民の参加により任意団体としてウヨロ環境トラストが設立された。設立と同時に、本州の倒産した会社が所有し放置されていたカラマツ林 2.2ha を取得し、ウヨロ川周辺の自然環境保全の拠点となるよう「トラストの森」と名づけられた。

「トラストの森」は、当初からウヨロ川周辺の里山保全の拠点として管理されており、積極的に枝打ち、除間伐が行われ、間伐材は小屋や東屋などの施設整備に活用されている。

2004 年 10 月にはトラストの森の土地を永続的な法人所有として登記するために、ウヨロ環境トラストは法人化された。トラストの森周辺の所有者の承諾を得た保全協定地は、現在は森林や砂利採取跡地の森林再生事業地を合わせてウヨロ川周辺では約 10ha となり、トラストの森と一体的に管理されている。また、白老町内の保全協定地としては約 40ha をウヨロ環境トラストが管理している。

### 環境ボランティア活動

設立 2 年目にウヨロ川周辺の自然にふれる機会として、自然ウォーキングや子どもの自然体験活動が始められた。その活動の中からウヨロ川のフットパス構想が会員から提案され、河川管理者の北海道庁の了承を得て、川沿いのフットパスの整備が 2003 年から始められた。

毎年秋ウヨロ川中流には、多くのサケが戻ってくる。近年では 9 月から 11 月にかけてサケの遡上を見る自然体験ツアーが実施されている。ウヨロ川フットパスはサケの遡上が見られるエコツアーの場所として、年々知名度を上げ、当会の会員もサケの遡上と里山の自然を案内するガイドとして活躍している。

また、子どもの自然体験活動として夏の宿泊キャンプ、秋と冬のデイキャンプを行っている。活動の内容は森の自然観察、森づくり体験など里山の自然に触れるプログラムのほか、ウヨロ川の自然観察、川遊びなど周辺の自然を活用したものになっている。

### 今後の取組み—NPOによる自然環境保全のモデルを目指して—

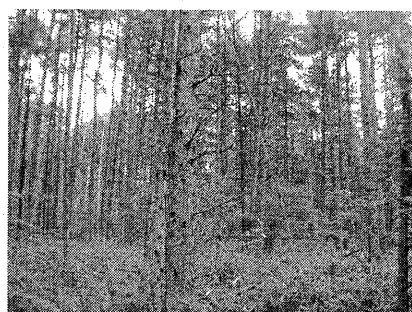
会員の里山の自然と触れる楽しみから始まった活動はこれまでの実践により社会的に評価されるようになった。対外的な評価が高まってきたが、当会の目指すものは地域の自然環境の保全であり、とりわけ森林保全である。多くの方々や団体との協力により里山の森の森林機能を高めることは、地球的課題である温暖化防止にもつながる。

森づくりや森林破壊の問題は以前では地域や国のレベルで考えられてきたが、地球温暖化の問題を契機に世界的な課題となってきた。ウヨロ川流域の森林管理や NPO による森づくりも、地域的な課題としてだけでなく、大きな視点から捉え考えることができる時代になってきた。地域的な取り組みではあるが、他の地域でも応用できる NPO による自然環境保全のモデルを構築していきたいと考えている。

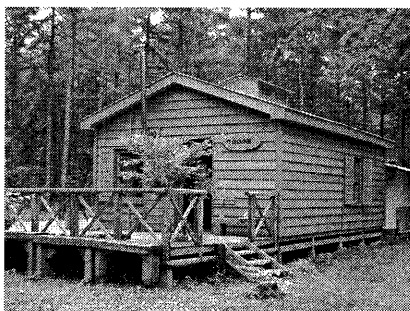
## ウヨロ川周辺の自然と活動の様子



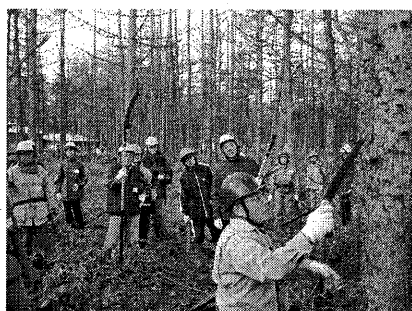
ウヨロ川



カラマツの放置人工林



トラストの森とウヨロ小屋



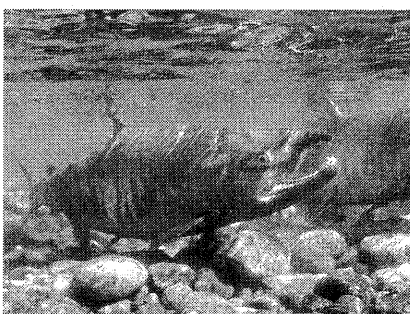
森づくり活動(枝打ち)



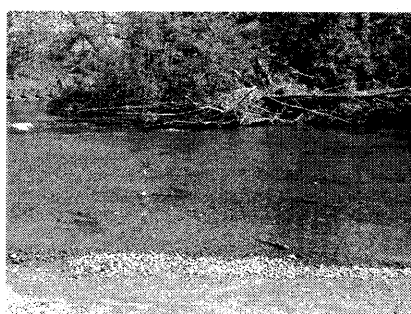
ウヨロ川フットパス



子どもの自然体験活動



ウヨロ川をのぼるサケ



サケの遡上と産卵場

### <連絡先>

NPO法人ウヨロ環境トラスト

住所 〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町1-11-7

TEL 0144-85-2852 FAX 0144-85-2856

E-mail: trust@shiraoi.org URL <http://www.shiraoi.org/trust/>



白老町

## NPO 法人ウヨロ環境トラストのホームページ

### NPO 法人ウヨロ環境トラストホームページ

<http://www.shiraoi.org/trust/>

ウヨロ川周辺の自然や田園景観の保全を目的にナショナルトラスト、環境ボランティア、森づくりなどの活動を行っているウヨロ環境トラストのホームページ。

### ウヨロ川サケウォッチング・ガイド

<http://www.shiraoi.org/trust/salmon/>

道央圏屈指のサケの自然産卵が見られるウヨロ川のサケの見所や動物のつながりを紹介。

### ウヨロ川フットパス

<http://www.shiraoi.org/trust/footpath/>

ウヨロ川沿いの手づくりの自然歩道フットパスを紹介。

### 北の里山事典

<http://www.shiraoi.jp/satoyamaziten/>

ウヨロ川周辺の里山の自然を紹介する子ども向けデジタル教材。

### 「ウヨロの森」森づくりプログラム

<http://www.shiraoi.org/trust/morizukuri/>

ウヨロ川周辺の市民参加の森づくりを紹介しています。、あなたも参加しませんか。

### 里山保全ボランティア

<http://www.shiraoi.org/trust/midori/>

移住者や都市の方へ北の里山の自然を体験する「緑の生活」を提案しています。

あなたも、里山保全ボランティア活動に参加しませんか。



## ウヨロ環境トラストの沿革

2010年12月現在

### 2001年10月

・有志による資金拠出により、ナショナルトラスト活動の拠点となる自然環境保全地（トラストの森）2.2haを取得。11月30日設立総会を開催し、会員15名で任意団体ウヨロ環境トラストを設立。

### 12月

・トラストの森（カラマツ林）の除間伐等の手入れ作業を、環境ボランティア活動として始める。

### 2002年4月

・トラストの森のカラマツ間伐木を利用したウヨロ小屋を建設する。（他の施設整備 2003年8月間伐木利用の東屋を建設 2006年5月ツリーハウス（樹間テラス） 2007年3月大型東屋ウヨロ・ドームを建設）

### 6月

・現在のフットパス（自然歩道）の一部を歩き、ウヨロ川フットパス整備構想を現地で検討。フットパスの整備を開始（ササ刈り、草刈り等）する。

### 2003年2月

・トラストの森隣接地のカラマツ林2.3haの所有者から使用承諾を得て保全協定地として除間伐作業を開始。（現在、ウヨロ川、ブーベツ川流域等白老町内に約40ha）

### 7月

・子どもの自然体験行事として、夏のエコキャンプを開催する。白老町、苫小牧、札幌から28人の小中学生が参加する。（2010年まで毎年実施、子どもゆめ基金事業）

### 11月

・「第9回森林と市民を結ぶ全国の集い」（札幌市開催）の分科会でウヨロ環境トラストの活動を紹介。集い後の1泊2日のエクスカージョン（現地巡見）の実施地として、ウヨロ川フットパスを歩くプログラムが実施される。（全国から21名参加）

・「第2回全道フットパスの集い」が白老で開催され、2日目の行事としてフットパス・ウォーキングが実施される。（全道から24名参加）

### 2004年10月25日

・北海道の認証を受け、NPO法人として登記。

### 2005年10月

・北海道大学、北海道立林業試験場、白老町等とニッセイ財団助成の共同研究に着手する。研究課題「北海道の「森林機能評価基準」を活用した地域住民・NPO・行政機関・研究者の協働による森林管理体系の形成」

### 2006年3月

・ウヨロ川フットパス・マップを5,000部作成する。ウヨロ川やフットパス周辺と当会の活動を紹介する。（林野庁新規助成事業の森業・山業創出支援総合対策事業）

### 4月

・北海道大学等との共同研究の現地検討会が2日間白老で開催され、トラストの森の現地確認等が行われる。

・文部科学省所管子どもゆめ基金教材開発助成事業として、「北の里山自然事典」が採択され、デジタル教材づくりに着手する。（2007年4月公開）

### 9月

・林野庁の新規事業「山村力」（やまぢから）誘発モデル事業として、「都市住民を対象とした里山保全ボランティア体験事業」が採択され、大型東屋（ウヨロ・ドーム）の整備や里山保全ボランティア体験会開催に着手する。

（2007年3月ウヨロ・ドームが完成）

### 10月

・NPO法人北海道市民環境ネットワークと共同して、砂利採取跡地に植林を行う森林再生事業の「ラブアースの森」づくりを開始する。（2010年まで毎年実施）

## 12月

- ・財団法人秋山記念生命科学振興財団の助成を受け実施した里山の自然環境調査の成果を、「ウヨロ川中下流域の里山自然環境調査報告書」として発行する。また、インターネットでも公開する。  
(<http://www.shiraoi.org/shizen/>)  
(絶滅の恐れのある種として、植物2種、昆虫類2種、底生動物2種、魚類5種、鳥類4種の計15種の生息を確認)

## 2007年3月

- ・北海道大学の研究者等の参画を得て、これまでの実績をもとに広く森づくり活動への参加を呼びかけるパンフレットとして「ウヨロの森・森づくりプログラム」を発行する。(社団法人国土緑化推進機構新規助成事業のNPO等創造的「森林づくり企画」アクションプラン)

## 8月

- ・国連大学サマーセミナーのフィールドワークをトラストの森で受入れ。(JICA 主管の森林研修も秋に受入れ)

## 11月

- ・森林ボランティアの層の拡大とボランティアの技術レベルのアップを目的に、チェンソーを使用する間伐技術の習得を目指す「森づくり実践講座」を実施。
- ・森林作業班を当会の中に発足させ、森林管理の施業レベルに達する本格的な除間伐事業を継続的に実施する。
- ・農山村と都市との連携・交流等により森林整備を行い、都市住民・青少年等のふれあいの場となる森づくりに全国的なレベルで顕著な実績をあげているとして、社団法人国土緑化推進機構主催の「ふれあいの森づくり」中央表彰(理事長賞)の受賞団体となる。

## 2008年9月

- ・緑の募金事業・特定公募事業として、「放置人工林等再生のための間伐推進と森林ボランティア育成事業」が採択され、林内作業車の導入や間伐ボランティア体験会開催に着手。(2009年も継続して実施)

## 2009年3月

- ・北海道大学、北海道立林業試験場、白老町等との共同研究の成果として、「森林のはたらきを評価するー市民による森づくりに向けてー」が北海道大学出版会から発行され、ウヨロ川流域における森のはたらきやNPO法人ウヨロ環境トラストの活動が紹介される。

## 4月

- ・北海道のNPO法人としては初めて、森林施業計画の認定を受けて5年間の森林施業長期受託事業を開始する。

## 2010年3月

- ・緑の募金事業・特定公募事業として、ログハウス製作研修会を5月までに6回実施する。  
(研修会終了後に有志によるログビルダークラブが設立され、第2回の研修会が2010年度の緑の募金事業として10月から毎月1回実施)

## 5月

- ・日本財団等の助成により、ウヨロ川における野生サケ保全のための調査を2009年10~12月実施して、サケウォッチング・ガイドのパンフレットを発行し、インターネットでも公開する。  
(<http://www.shiraoi.org/trust/salmon/>)

## 10月

- ・緑の募金事業・直接事業として、森林ボランティア指導者養成「育林技術研修会」が採択され、森林ボランティア活動に関係する者を対象に、科学的な知識と現場経験を兼ね備えた専門家の指導による実践的な育林技術研修会に着手。森林ボランティアの体系的な技術向上と森林ボランティアの中核となる指導者の育成を目指す。(2011年7月まで毎月1回実施)

## 12月

- ・社団法人日本ユネスコ協会連盟がすすめる未来遺産運動のプロジェクトとして、「野生サケのふるさとウヨロ川保全調査・普及プロジェクト」が、「プロジェクト未来遺産」として登録されることが決定する。(2011年3月登録予定)

## 未来遺産運動の概要

(社)日本ユネスコ協会連盟未来遺産運動ホームページより <http://www.unesco.jp/mirai/about/index.html>

### 未来遺産運動とは？

100年後の子ども達に長い歴史と伝統のもとで豊かに培われてきた地域の文化・自然遺産を伝えるための運動です。

民間ユネスコ運動は、ユネスコ憲章の精神に則り、戦争に反対し、豊かで魅力的な地域づくりに貢献することによって社会の安定と発展を願い、それがひいては世界平和につながることを目指して活動しています。

しかし、グローバル化が世界規模で加速する中、より緊密な地球社会が実現する一方で、テロや世界的経済不況などの亀裂も入り、明るい未来への展望が失われつつあります。日本の地域社会も過疎化や少子高齢化の波に見舞われ、元気をなくしかけています。何よりも、長い歴史を超えて引き継がれてきた豊かな文化・自然遺産が急速に損なわれ、継承の危機に瀕しているものも数多くあります。

「未来遺産運動」は、長い歴史を超えて人々が紡ぎ続けてきた文化遺産や、自然とともに生きる知恵や工夫の中でつくりあげてきた自然遺産という豊かな贈り物に光を当て、それらを未来に伝えていこうという人々の意欲を活性化させることによって時代を切り拓いていくことを目的としています。

### 主な事業

- 1) 地域の文化・自然遺産を未来に伝える市民の活動を応援する「プロジェクト未来遺産」
- 2) 子ども達がふるさとの伝統と文化の素晴らしさ（私のまちの宝もの）を学び、紹介する「私のまちのたからものコンテスト」
- 3) 社会全体でこうした活動を支えていくための「未来遺産募金」

3つの活動を軸に、他団体や行政機関とも積極的に提携し、国民的な運動としての盛り上げを図ります。

### 事業体制

#### 【主催】

社団法人日本ユネスコ協会連盟

#### 【特別顧問】

松浦 晃一郎（前 UNESCO 事務局長）

#### 【特別協力】

東日本旅客鉄道株式会社、レクサス、日清紡ホールディングス株式会社

### 【広報協力】

北海道旅客鉄道株式会社、東海旅客鉄道株式会社、西日本旅客鉄道株式会社  
四国旅客鉄道株式会社、九州旅客鉄道株式会社、日本貨物鉄道株式会社

### 【後援】

総務省、農林水産省、環境省、文化庁、観光庁、日本ユネスコ国内委員会、日本政府観光局(JNTO)、  
全国知事会、全国都道府県議会議長会、全国市長会、全国市議会議長会、全国町村会、  
全国町村議会議長会、社団法人 企業メセナ協議会、社団法人 経済同友会、日本経済新聞社

### (参考)

#### 「第1回プロジェクト未来遺産」10件（前回登録分）

「第1回プロジェクト未来遺産」（公募期間：2009年4月14日～8月31日まで）は、全国の32都道府県から50プロジェクトの応募があり、未来遺産委員会による厳正な書類審査および一部現地調査等を経て、2009年12月1日に下記10プロジェクトが登録されております。

未来遺産委員会では、「地域の文化や自然を守り、継承し、まちづくりに活かしていること」、「地域を再発見し、人々がわくわくするような楽しい活動であること」等を選考の基準とし、「危機にある遺産」と、「生物多様性」を守る活動を優先テーマとして決定いたしました。

第1回の登録対象は次のとおり。

- 久保川イーハトーブ世界自然再生事業（岩手県）
- 神楽坂をますます粹に～「粋益（いきまし）」プロジェクト（東京都）
- いきもの不思議の国・中池見湿地（福井県）
- 葵プロジェクト（京都府）
- ならまちわらべうたフェスタ（奈良県）
- 孟子不動谷生物多様性活性化プロジェクト（和歌山県）
- 日本の記憶が息づく島OKIを守り伝えるプロジェクト（島根県）
- このままの軀がいい！住民の手による歴史的港湾都市「軀の浦」の歴史・文化・自然の景勝と再生
- 八女福島 空き町家と伝統工法の再生による町並み文化の継承（福岡県）
- 現代版組踊「肝高の阿麻和利」と「キムタカのマチづくり」（沖縄県）

## 第2回 プロジェクト未来遺産 募集要項

### 募集対象

市民が主体となって地域の文化・自然を守り継承するプロジェクトを募集します。

### 応募条件

A【募集するプロジェクトの条件（下記のいずれかを満たす必要があります。（複数可）】

- ① 地域の自然や文化を未来への宝物（地域を再発見）として継承するという明確なメッセージをもつ
- ② 先進性や創造性をはらみ、魅力ある活動である
- ③ 重点テーマや類似する課題を抱える他の地域へのモデルとなり波及効果がみこまれる活動である

- ④ 子どもや若者を巻き込む活動がある
- ⑤ 活動に第三者（個人・企業など）が参加しやすいしくみがある

**B【応募団体に関する条件（すべてを満たす必要があります。）】**

- ① 2年以上の活動実績があること
- ② 地域の人々が主体となって運営していること<sup>1</sup>
- ③ 特定の政治や宗教に偏らない非営利団体であること<sup>2</sup>
- ④ ユネスコ協会、国・地方公共団体、美術館・博物館、地域メディア等からの推薦を得られること

**募集プロジェクトのテーマ**

自然、有形文化、無形文化等を保護・継承する活動を募集します。

特に、2009年～2011年は、急速に失われつつある「危機にある遺産」と

2010年の国際年に合わせ「生物多様性」を守る活動を優先的に取り上げます。

今年は10件程度のプロジェクトを「プロジェクト未来遺産」として登録する予定です。

**プロジェクト未来遺産に選ばれたら**

日本ユネスコ協会連盟は、実施団体と協議の上でプロジェクトに下記の活動助成をいたします。

- ① 助成金：
  - ・ 活動助成金の贈呈（選ばれた10件程度のプロジェクトに合計総額500万円程度を助成）
- ② 広報協力：
  - ・ プロジェクト未来遺産登録式典での広報
  - ・ 未来遺産運動ホームページ上での広報 ほか
- ③ 企業からの協力（協力合意が成立した場合のみ）：
  - ・ 企業の協力形態に応じた応援資金やボランティア派遣等の提供

**応募方法**

所定の応募用紙に必要事項を記入し、データ（CD-RやDVDまたはUSB-メモリ）とA4版印刷（3部）、その他の参考書類を添付して下記応募先までご郵送ください。

応募書類受付期間は、2010年4月1日（木）～6月30日（水）必着です。

（注意）〆切日を過ぎた書類はお受けできません。

また応募書類はご返却いたしません。

ダウンロードサイト 未来遺産運動ホームページ [www.unesco-mirai.jp](http://www.unesco-mirai.jp)

・（社）日本ユネスコ協会連盟は、「個人情報の保護に関する法律」および関連する法令を遵守し、細心の注意を払って情報の保護に努めています。

## 選考の流れ

申請されたプロジェクトは、未来遺産委員会により下記の段階を経て選定されます。

2010年	4月	1日 (木)	応募開始
			↓
2010年	6月	30日 (水)	応募〆切 (必着)
			↓ 事前選考・一部調査
2010年	11月	初旬 (予定)	未来遺産委員会：選考 「プロジェクト未来遺産」の決定
			↓
2011年	3月	21日 (月・春分の日)	記念式典 「プロジェクト未来遺産」プレゼンテーション

選考は以下の方々からなる未来遺産委員会によっておこなわれます。

### <未来遺産委員会>

#### 【委員長】

西村 幸夫(東京大学先端科学技術研究センター 教授)

#### 【委員】(アイウエオ順)

秋田 実(三菱商事株式会社 環境・CSR推進室長)

秋道 智彌(総合地球環境学研究所 副所長・教授)

アレックス カー(株式会社 庵 取締役会長、東洋文化研究者)

あん まくどなど(国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット 所長)

池坊 美佳(華道家)

隈 研吾(建築家、東京大学教授)

古谷 堯彦(大分合同新聞社 常務取締役)

佐野 賢治(神奈川大学日本常民文化研究所 所長)

七野 俊彦(トヨタ自動車株式会社 レクサス国内営業部 部長)

高階 秀爾(財団法人西洋美術振興財団 理事長)

知花 くらら(モデル・リポーター)

#### 東儀 秀樹(雅楽師)

永野 浩介(日本電信電話株式会社 総務部門部長)

西山 厚(奈良国立博物館 学芸部長)

西山 徳明(九州大学芸術工学研究院 教授 ※4月より北海道大学観光学高等研究センター)

#### 萩本 欽一(タレント)

朴 恵淑(三重大学 人文学部 教授)

福原 義春(社団法人企業メセナ協議会 会長)

前田 耕作(アフガニスタン文化研究所 所長)

黛 まどか(俳人)

見並 陽一(東日本旅客鉄道株式会社 常務取締役)

宮廻 正明(東京藝術大学 大学院美術研究科 教授)

宮田 繁幸(東京文化財研究所 無形文化遺産部 部長)

毛利 和雄(日本放送協会 NHK解説委員室 解説委員)

矢野 和之(日本イコモス国内委員会 事務局長)

鷲谷 いづみ(東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授)